

茨城ブロック協議会

副会長方針

茨城ブロック協議会

広報及び24LOMネットワーク担当兼南エリア担当

副会長 岡野 一則

変革の能動者として止まる事無く、時代、流れを敏感に感じアクションを起こす、「時代に流される」ではありません。柔軟に対応し時代の流れと仲良くしていく。その中で、気づきを重ね、行動を重ねていく、先人達に教えていただきました。気づきだけでは気づいたことにならない、行動して初めて気づいたことになる。先人からの贈り物で、今の私達、JCがあるように思います。

本年度、南エリア担当兼情報戦略・循環交流委員会を担当させていただきます。ネットワークを生かす、スケールメリットを生かす等、なんとなく伝わりやすい言葉がよく使われその手法も様々であります。情報システムの構築、各種媒体など私たちのかかわる茨城ブロックにおいても様々だと思います。しかし実際蓋を開けると事業において空席が目立つ、知らなかった等認知不足が出てきます。現在も様々な手段は講じていますが、伝えるべき事、認知してもらおう事など、見極めを大切に、メディアの活用も大きく視野に入れた広報活動、そして会長の言葉ですが、「もしそこに「ゴミ」が落ちているのなら落ちない仕組み捨てない仕組みを創りあげるのが JC 捨てないよう声あげるも JC 捨てるも JC」とあります。根本を考え理解し、変えて行き運動を展開して行くのがJC、しかし全てを変えればよいのでしょうか、マスコミ等に惑わされず、本質を見極め、メンバーの一人ひとりの意識、行動、JCとしての仕組み、声、行動、を含めた情報戦略、ブロック協議会としてLOM間との交流だけでなく、問題の共有、解決などHUB的役割を越えた24LOMの交流に力を注いでまいります。また、南エリアにおいて7LOMと大所帯になります、大所帯だからこそそのスケールメリットを生かし、地域性を考慮したローカルコミュニティの創造、構築をして行きます。

最後に 副会長という大役をいただき、違う目線を体験させてもらえる事に大変感謝します、役職で目線がかわると言われますが、私の持論として目線は本気さに変わると思っています。過去を振り返ると、その時は本気でやっていた事が、ちがう体験によって本気のフリだった事に気づきます 私は本年またひとつ上の「本気」で活動することをお誓い申し上げます。